

足尾緑化体験事業に参加



写真：植樹を初体験する参加留学生

7月22日、栃木リビング新聞社主催の「足尾緑化体験」に、海野学務担当理事のほか職員・外国人留学生等27名が、6月末に設立した宇都宮大学「峰が丘地域貢献ファンド」の事業の一環として参加した。

足尾は、鉱山から銅を取り出す際に発生する亜硫酸ガスによる煙害で山の草木が枯れ果ててしまったもので、その被害は深刻で、百年以上に渡って緑化事業が進められてきたにもかかわらず緑が戻りつつあるのはまだ半分程度で、すべてが緑化されるにはあと百年から二百年かかると言われている。

この足尾の緑をとり戻すため、そして地球温暖化防止のため「足尾緑化体験」が開催された。今回植樹するのは、煙害と山火事で廃村に追い込まれた「松木地区」の山。この地区は、NPO法人「足尾に緑を育てる会」の方々が少しずつ植栽している。当日はまず、足尾環境学習センターでこの松木地区について学び、その後、植栽について説明を受け、引き続き植樹を体験した。小雨模様の天候も植樹会場に近づくにつれ、雲間から薄日が差し始め、参加者は初めての体験で四苦八苦しながらも山の斜面にクヌギやケヤキの苗木を、足尾に緑が戻る日を願いながら一本一本丁寧に植樹し、心地よい汗を流した。

参加した外国人留学生の一人は「ボランティアのチャンスが少ないのでいい経験となった。植樹を続け一日も早く緑を取り戻したい。」などと目を輝かせながら語っていた。帰りには、近くの温泉で一日の汗と疲れを流し落として、帰路の車中では、自然の大切さや環境問題について活発な意見が交わされ、有意義な体験の一日となった。